

柵の中で静止する金魚…これってリアル???

正解は、絵。描いては樹脂を流し、描いては樹脂を流し、を繰り返して、一層一層の平面絵画が重なって「深堀金魚」となる。不思議な魅力を放つ「深堀アート」の世界を覗かせてもらった。

やり直せないアート

金魚も、藻も断面を描く。試行錯誤しながら数ミリずつ樹脂を重ねて、少しずつせり上げていくんです。すべてを同時に描くわけではないので、こっち向き?いやあっちじゃない?とか、位置を決めるまで悶々と悩みます。樹脂を入れたらやり直しはできない! 描けない時もあるし、精神的にも追い込まれる。でも悩むことによって必ずいい作品が生まれます。書道とか、襖絵とか、一発書きの世界ではやり直しはあり得ない。しみ込みとか、滲みとかを計算に入れて、完璧に仕上げることに日本人は長けていると思うんです。そこが心を打つんだろうな。振り返るわけにはいかない、封印してしまう、という判断力が問われる作業を、「良くやるなあ」と世間は見ていてのではないのでしょうか?今はコンピューターで絵が描ける時代、失敗してもやり直せますからね。

創作する時は、ポツと浮かびます。僕の場合、「水たまり」が重要なんです。金魚をどこに泳がそうかな、って。たとえば、つぶれた缶。いつどこで何をしている時に拾った、と記載しておくんです。缶はもともと容器だったけど、役目を果たして、捨てられて、何年もいろんな車に轆かれて、平面絵画のようになった。それが僕の平面絵画とリンクしたんです。平面になった缶+平面絵画の金魚の積層が、今度は立体に見えるという、平面とは何か?みたいなものがこの中には入っている。この部分はひらめきとか感覚なんです。あ、これなんかいいな、みたいな。

「嫌」な方向に答えがある

アーティストになる、って言いながら絵を描くのが嫌になった。「お前、絵が好きだったら描け」と訴えてきたのは金魚でした。スランプだった時にたまたま見た和金は、片眼で、鱗もボロボロだった。でも僕にとって究極の美でした。「僕が探していたのはこれだ」と。この出来事を「金魚救い」と言っています。

今思えば、学生の時に盆踊りの手伝いでもらった数百匹の金魚を山分けして、適当に育てていた残りの3、4匹の中の、最後の1匹が運命の金魚だったわけで、その金魚を世話してくれていたのが、僕のことを大っ嫌いだった同級生。いつから僕のことを認めてくれるようになったのでしょうか(笑)。今は僕の奥さんです。彼女がいなかったら



金魚養画場主 美術家
深堀 隆介氏
Riusuke Fukahori

1973年 愛知県生まれ。横浜市在住。愛知県立芸術大学美術学部メディアデザイン専攻学科卒業。フリーランスを経たのちディスプレイ会社に勤務。1999年に退職後、創作活動を開始。2002年、器の中に樹脂を流し込み、その上に金魚を直接描く技法を考案。代表作は「金魚酒」。第9回岡本太郎現代芸術大賞展2006 入選ほか。

「金魚救い」は起こらなかったわけです。

14、5年前、自分だけの技法を生み出さなきゃ、と焦っていた時、樹脂屋さんで働いていた頃のつらい思い出がよみがえってきた。本当は樹脂を見たくなかったし、においもかぎたくなかった。だけど透明の樹脂の上にヒレを描いたら、思い通りの表現ができた。「これだ!」と。そういうことって世の中、ありますよね。だから嫌なことに目を背けないようにしています。

「ハマっ子」を満喫

生まれも育ちも名古屋で、芸術大学を卒業し、会社に就職してから月1で東京に来て、ギャラリー巡りをしていました。アーティストに未練があったんですね。東京にはアメリカやヨーロッパのアートがある。刺激的で面白かった。自分の作品がだんだん売れるようになって、パフォーマンスの依頼が来るようになり、郊外でいいから安いところを借りようと不動産巡りしていた時に、横浜いいな、って。でも横浜なんて高くて無理だと思っていた。第1回横浜トリエンナーレを見に来た時、2Kの、平屋の駐車場付きを見つけて、

「やった!」と。新横浜や羽田も近い。海の近くで育ったので、海や川など、水場が近いことも気に入りました。知り合いなんていなかったのに、ご近所さんの紹介でたくさんアーティストにも知り合えたり、今や完全にジモッティです(笑)。子どもにとってはここが地元、ハマっ子なわけで。そのお母さん仲間もできて、すごく楽しい。いい場所見つけたなあ。行き詰って悶々としてきたら、横浜港や湘南に子供を連れてドライブに行きます。気楽に行けて観光した気分になれるし。子どもたちからも良い刺激をもらっています。硬い頭を柔らかくしてくれる。いいと思ったことだけを表せばいいじゃん、と彼らに教えられています。うまい絵を描きたいとは思わない。みんなが共有できるものを描きたい。そういうものを生み出していきたいです。

◆8月5日(金)~28日(日)「キンギョ・イン・ザ・スカイ」開催
6日(土)14時~ ライブペインティング
スカイビル 問合せ☎045(441)2424 ※下記参照
◆~8月28日(日)「不思議なアートトリックトリック!とトリック」
平塚市美術館 問合せ☎0463(35)2111

●ライブペインティング
2016年8月6日(土)14時~
地下2階特設ステージ 観覧無料
青空を自由に泳ぐ金魚たちをイメージし
大画面に描き上げます。
約一時間に渡り繰り広げられる多彩な表現の
ライブペインティングは必見!
描き上がった作品は10階中央広場で展示します。

●展示作品
10階 青空を泳ぐ金魚
28階 花火の中を泳ぐ金魚

●涼を感じるオリジナルグッズ
マルイシティ横浜
地下2階特設コーナー
ポスター、ポストカード、クリアファイル、
トートバッグ、手ぬぐいなど、
作品をモチーフにしたグッズを販売。

SKY20周年
特別企画

ザ・イン・キンギョ・ イン・ザ・スカイ

期間 8月5日(金)~8月28日(日)
会場 10階中央広場・28階-29階
※観覧無料

金魚絵師
深堀隆介

『美しい金魚たちを
20年目のスカイという空に
泳がせたい。』
スカイビルと深堀隆介の想いが出合い、
特別な夏を彩る作品展になりました。

横浜駅直結
JR改札口から約3分
至 保土ヶ谷戸塚
至 川崎東京
S スカイビル
〒220-0011
横浜市西区高島2-19-12 TEL:045-441-2424
www.yokohama-sky.co.jp/